

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900131		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム東船橋		
所在地	千葉県船橋市東船橋1-21-12		
自己評価作成日	平成24年2月20日	評価結果市町村受理日	平成24年4月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Tod.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成24年2月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

設備的には恵まれていないが、その分家庭的な雰囲気意識して、昭和的な穏やかな空気を大切にしている。どんな状況でも、「もし自分の親だったら・・・」「もし自分だったら・・・」とご入居者様の立場で常に考えて、支援するように努めている。お一人おひとりと向き合い、一つでも多くの笑顔を見られる様に、日々気づきを大切にしている。また入院などして、身体機能低下にならないように、安心して安全に生活していただけるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「その人らしい快適で穏やかなシルバーライフをサポートする・心を込めた親切なサービスに努めその心を磨く・様々な機会を通じて地域の人々とのふれあいを大切にする」との理念の共有を図っている。特に「その人らしく生活できるように」入居者一人ひとりの新たな「その人らしさ」を引き出すことを大切にしている。認知症についての理解を更に高め、「もし自分の親だったら・・・、もし自分だったら・・・」と常に入居者の立場で考え、一人ひとりの入居者と向き合い、職員一人ひとりの日々の気づきを大切に、一つでも多くの笑顔を見られるよう支援し続け、理念を実践するよう努めている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を毎日の申し送りにて唱和し、日々実践できるように努めている。	愛の家グループホームの3つの運営理念を毎日唱和し、共有と実践に努めている。特に「その人らしく生活できるように」入居者一人ひとりの新たな「その人らしさ」を引き出すことを大切にしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事など積極的に参加するようにしている。また民生員さんと交流し、つながりを強めていけるように努めていきたい。	自治会に加入しており、神社の大掃除と一緒に参加したり、町会館の高齢者のふれあいサロンに参加してお茶したりしている。	一番近くの近隣である同一建物のデイサービスや隣の施設との交流や民生委員や自治会を通しての認知症に関する勉強会の実施等、地域との交流をしていきたいとのことであり、是非実現され地域との双方向の交流を工夫されることを期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はできていないが、自治会を通じて、地域の方への勉強会や交流会を持てるように努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でどんな些細なことでもご意見をいただけるようお願いし、それを即サービスにつなげるようにしている。	入居者・家族・自治会長・地域包括職員等が参加して、活動報告・入居者の状況・外部評価・医療連携・食事提供について等を議題として、2ヶ月に一度定期的に開催している。行事に家族も参加できるようにして欲しいとか連絡ボードの設置等の意見をサービスに活かすようにしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に訪問し、お伝えするように心がけている。また疑問などはお電話で確認し、実践するようにしている。	高齢福祉課には月に2度、包括支援担当者とも毎月面会をするようにしている。往診医の変更の件とか新規開業についてなどについて、具体的なアドバイスや情報を頂ける関係が築けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルに基づき、定期的に研修している。やむを得ない事などは、会社及びご家族様に相談し、職員で話し合い行うようにしている。	身体拘束マニュアルに基づく研修を実施し拘束に関する認識を高めるとともに、入居者が立ちあがった途端に「どうしたの？ どうしたの？」と声を掛けることは如何か？ など言葉による拘束についてなどその場で話し合い拘束に関する意識を高めるようにしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する研修をしている。管理者は職員の体調や精神面の変化に気づけるよう、注意し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は制度の内容を理解しているが、職員は理解できていない者が多いので、今後周知できるように努めていく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営推進会議で不安や疑問をお尋ねし、ご理解いただけるよう説明している。欠席された方には、お電話や訪問された時に、別途説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	社内でのご家族様アンケートや外部のアンケートを行い、それを運営に反映させている。	法人で毎年実施するアンケートや外部評価時のアンケートで出だされた意見要望などを良く検討し、食事についても単に栄養バランスだけでなく、見た目でも楽しくなるようおかず毎に5種の器を揃えていくようにする等、運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム内の全体会議で聞いたり、運営部内のシステムで反映させている。	各事業所職員から上がってきた提案を反映させる本部への提案制度がある。管理者が代わったばかりで、全体会議等では管理者からの提言が多く、職員からの意見提案を引き出せるまでに至っていないようである。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員アンケートを実施し、それを反映させている。また定期的に講話会開催や職員とふれあう機会を作っている。表彰制度で事業所及び個々のモチベーションをアップさせている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	支援制度を完備している。また内部研修開催や外部研修にも参加できるように情報共有している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉ディビジョン内で、ホーム間研修を行っている。またバレーボールやバドミントンなどのスポーツ大会を定期的に開催し、職員同士の交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>十分なアセスメントにより、ご本人様の安心を確保できるように努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>不安や要望を全てお聞きした上で、サービスに取り入れるように努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>十分なアセスメントと、それまで関わっていた機関に協力をいただき、必要な支援を見極めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員には常に「自分の親だったら…」と言う気持ちでケアするように指導している。一つでも多く笑顔になっていただけるように努めている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご本人様とご家族様の関係を把握し、よりよく連携を取れるように努めている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居当時はある程度できていた部分もあるが、入居してから4～8年経っている為、できていない方もいる。馴染みの方は訪問くださっている。</p>	<p>飲食店時代の馴染みのお客さんが訪ねてくる方や法事に家族といたり、馴染みの美容院に行く方もいる。お正月に一泊する方のために支援の仕方を家族にメモで渡したり、馴染みのお店に衣服を買いに行ったりと馴染みの関係を出来るだけ続けられるよう支援している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>その方らしく、また他者様と心地よい共同生活ができるように努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても状況に応じて、相談や支援に努め、関係を断ち切らないようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様からお聞きするのが難しい場合は、ご家族様からお聞きし、思いや希望、意向の把握に努めている。それに基づいて会議等で検討している。	入居者の今までのことを家族に聞くとともに、普段の動作から本人の思いを汲み取っている。元々固いものが嫌いだった入居者に対し、食事の形状を変更したところ食がすすむようになった。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様からお聞き把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の現状を把握するように努めている。また申し送りをして、職員が共有できるように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様、医療関係と連携を取り、カンファレンスやサービス提供会議で話し合いをし、介護計画を作成している。	6か月に一度、アセスメントを行い、3ヶ月に一度モニタリングを行っている。ご家族の思いは訪問時や電話による会話の中からも取り取っている。	今後は、センター方式を取り入れて居室担当者がアセスメントを行えるよう検討している。ケアマネジャー交替以降、介護職員がケアプラン目標を把握する機会がなくなってしまうので、プランを共有するとともに、介護職員の意見を吸収できるようなケアカンファレンスの機会確保と継続を期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日報やケース記録に記入して、職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じて、柔軟な支援やサービスに取り組むように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会のふれあいサロンの参加など、暮らしを楽しんでいただけるように支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様からの希望を大切に、従来のかかりつけ医の変更をし、より連携を深められるようにした。ご家族様にも往診に立ち会っていただき、適切な医療をうけられるように努めている。	月に2回往診がある。「往診ファイル」にて医師への申し送りや往診の内容の職員間での情報共有を行っている。数か月に一度、定期的に外来を受診する方は家族が同行しており、内容を申し送りノートで共有している。その他の受診では、職員が同行することもある。週1回、訪問歯科があり、口腔ケアを行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時や24時間365日必要な場合は常に連絡・相談し、指示をいただいている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に訪問し、担当者や相談員の方と密に関わり、かかりつけ医に報告・相談し、医療関係者と関係づくりをしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療関係者とご家族様、事業所の連携を取り、3者で話し合いを行い、方針を共有できるように努めている。	往診医を変更し、重度化にむけても連携をとれる体制となった。入居者が重度化した場合には、職員全員の意思を確認して話をすすめる予定である。	それぞれの家族と、医師、事業所との面談を予定しており、それにより現段階での家族の意向確認を検討しているため、実行されることを期待します。また、ターミナルの研修等を通じて職員の知識の向上と精神面のフォローができる体制の構築を期待します。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急マニュアルにて、定期的に研修をしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施している。地域の方々にも参加していただけるよう努めている。	定期的な避難訓練を行っている。備蓄は3日分を用意している。防火用自主点検票にて毎日チェックを行っている。	入居者全員参加しての避難訓練とはなっていない。また、毛布等を使用しての入居者の搬送も全職員が体験できていない。避難訓練の回数を増やすなど確実に経験値を積んでいただきたい。また、避難訓練の際には、近隣もお誘いし、参加していただけるよう取り組まれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の尊厳を重視し、プライバシーを損ねない声かけや対応するように努めている。	職員とプライバシーのとらえ方の確認を行った。往診は各居室で行うように変更。夜間熟睡中に入居者を起こしてまでのトイレ誘導は適切なのかなど、その人らしさとその人の尊厳を重視することの大切さなどを検討し、話し合っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者側の決め付けではなく、選択していただけるように努めている。全職員が実践できるように指導していきたい。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務マニュアルはあるが、あくまでもお一人おひとりのペースや状況を優先し、希望にそって支援できるように努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服など、なるべく選択していただけるように支援している。一部の職員しかできていないため、全職員ができるようにしていく。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる所をやりたい時に、準備や盛り付け・片付けなどをしていただくように努めている。	本社栄養士作成の献立どおりに調理している。冷蔵庫に基本食事形態を張り出している。調理や下準備を入居者と一緒に行っている。目で見て味わえるよう、五品を五つの器に盛り付けている。出前をとることもある。誕生会ではケーキを楽しみ、正月にはおせちを楽しんだ。おやつを手作りすることもある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状況に合わせて、ミキサー食やきざみ食を提供している。また水分をあまり摂らない方には、いろいろ工夫をして、できるだけ摂っていただけるように支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の訪問歯科医から指導していただき、その方に合わせた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムを把握して、トイレ誘導を行っている。	おむつ使用の方は1名、他はリハパンと布の下着にパット使用となっている。パットも尿量や間隔を考慮し、入居者にあったパットを選択している。夜間のおむつ使用からリハパンへと改善したケースがある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維やきなこ牛乳などを提供したり、腹部マッサージを実施し、予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現時点で希望はないが、楽しんで入浴していただけるように努力している。	お一人で入れる方でも背中を洗うなどの支援をしている。週に2～3回の入浴となる。体格の良い方の入浴に際しては、一時的に職員3名で対応となるので入浴回数は減るが清拭や足浴で対応している。ゆず湯や菖蒲湯、入浴剤を楽しんでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状態でお昼寝をしていただいたり、安心して寝ていただけるように努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬には細心の注意をしている。用量や用法・副作用など記載された薬の説明書を見て、毎回薬のチェックを行い、症状の変化の確認に努めている。些細なことでも医療機関に報告・連絡し、指示をいただいている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一部の方しかできていない。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一部の方には、買物に出かけたり、散歩したりしているが、すべての方にはできていない。	外出イベントは年に3回くらいとなり、お花見や葛西臨海公園などに行った。現在は月に1回、2～3名の方が外出している。	日常的に散歩や外気浴の機会をつくれるよう工夫されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	ご家族様からお小遣いをお預りし、いつでも使える状態にあり、希望と状況により、支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、できるように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設備により、できてない所が多いが、生活感は大切にしている。	リビングには全員が座れるソファ、テーブル、テレビ、加湿器がある。ホワイトボードで日付が確認できるようになっており、掃除を手伝える入居者もいる。階段には昇降機が設置されている。	季節感を出せるよう検討中とのこと、実現されることを期待します。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方に合わせて、居場所づくりをしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごしていただけるようにしているが、もう少し工夫が足りない。	ベッド、エアコン、電気、クローゼット、カーテンが備え付けられている。持参されたものとしては、タンス、テーブル、イス、テレビ、冷蔵庫、仏壇、壁飾り、ぬいぐるみなどがある。部屋は和室タイプとフローリングがある。布団の使用も可能である。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差や老朽化など、設備に支障があるが、そこを踏まえて、安全に生活していただけるように努めている。		